

教職コンソーシアム通信

学びの架け橋



人にまっすぐ。
大阪教育大学

01 「教師にまっすぐ」修了式

02 リレーエッセイ

03 交流事業の紹介

05 加盟校出身学生・卒業生の紹介

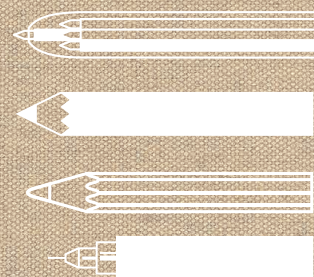
06 加盟校の取り組み紹介

07 大学トピックス／編集後記

教師をめざす高校生育成プログラム 「教師にまっすぐ」修了式

教師になりたいという夢を持つ高校生を対象とした育成プログラム「教師にまっすぐ」の修了式を、11月26日に実施しました。中西正人理事・副学長が挨拶を述べ、一人ひとりに修了証書が授与されました。最後にはプログラムを振り返るサプライズビデオが流され、皆で夏の思い出を噛みしめながら、教師への志を新たにしました。





教師、なんと 素晴らしい生き方

大阪府立春日丘高等学校 湯峯 裕

私が教職に就いたのは昭和55(1980)年。そしていよいよ、今年が最後の年となってしまいました。思い返せば、その年は、松田聖子がデビューし、山口百恵が引退した年だったと思います。映画ではこの年から「ドラえもん」シリーズが始まりました(「スターウォーズ」シリーズはその3年前から)。テレビドラマでは、前年に始まった「3年B組金八先生」が大流行。生徒の急増期でたくさん的高校が新設され、私が配属されたのもその一つの西浦高校でした。教員の平均年齢が20歳代という、学校全体が今から思うと信じられない若々しさ。48人が12クラスで3学年、これも信じられない数です。16クラスの学校もありました。顧問をしていた水泳部で、年末年始を除いた360日間練習をした年もありました。今なら大問題になるかもしれません。そのあとは、大阪初の総合学科への改編、普通科単位制の開設、普通科総合選択制の開校など、教育改革に伴う再編整備のお手伝いをしてきました。

私の高校時代は、今のようにたくさんの選択科目があるわけではなく、文理の選択は3年生になる時で、理科も社会も、全科目を全員が同じように学んでいました。1週間34コマにどうやって入っていたのでしょうか。どの学校も教育課程はそれほど違いがなく、それでも今以上に校風の違いははっきりしていたように思います。私は天王寺高校ですが、毎年交流戦をする夕陽丘高校は優しい感じがし、北野高校はおしゃれな感じがして、どちらもうらやましく見えました。何事も自分たちで運営し、今盛んに言われる主体的で協働的な学びの実践そのもの、L

HRで天王寺動物園なんてこともありました。3年のクラスの仲間とは、お盆の同窓会を未だに毎年続けています。

名物先生という言葉がありますが、当時のどの先生も個性豊かで全員が名物先生でした。その中でも国語の先生の影響を強く受け、3年の夏まで理学部志望だった私は、文学部を受けることになって国語の先生に。自分の生きざまを常に語ってくれたその先生のおかげで、今の私があります。教育実習でもお世話になり、最後の日に下さったメルロ=ポンティの本の表紙の裏に、「自分の教養からにじみ出るものでなく、他人の知識を盗んで自分のものとして手早くオシャマに適應してしまひ、もう自分の教養と人から借りた知識との区別もつかなくなっても教師として破滅しません。人間としては破滅します。私はこの地獄を見て来ました。」と書いておられました。いつまでも忘れられない言葉です。

教育改革が叫ばれ、キャリア教育やアクティブ・ラーニングなど、新しい言葉が次々と語られていますが、「金八先生」がそうであったように、教育の根幹は心です。形ではありません。「ドラえもん」では、たくさんの秘密兵器が出てきますが、最後に解決を導くのは人の優しさです。そして、それを醸し出すのが「自分の教養」です。「師」の言葉が示す教え導く力は、そんなところから湧き出てくるのではないのでしょうか。



湯峯 裕 ゆみねひろし
大阪府立春日丘高等学校校長



交流事業の紹介

EXCHANGE
PROGRAMMES

300人の高校生が大教大をまるごと体験

府立高校教職コンソーシアム加盟校の高校生・教員を対象とした「大阪教育大学キャンパスガイド 大教大をまるごと体験しよう!」を、11月26日(土)、柏原キャンパスで開催しました。約300人が参加し、大学生が案内する施設見学や大学の講義体験、大学生・教員が生徒の質問に答えるコーナーなど、大阪教育大学の魅力を体感できるさまざまな催しが繰り広げられました。

イベントは、教養学科芸術学専攻音楽コース学生と加盟校である夕陽丘高等学校音楽コース生徒による合同金管アンサンブルで幕を開け、中西正人理事・副学長が歓迎の挨拶を述べました。大学生3人が大阪教育大学の魅力をプレゼンテーションした後、10人程度のグループに分かれて講義室や図書館、体育館などを見学し、案内した大学生と一緒に学食で昼食をとりました。

午後からは、文系と理系に分かれて大学の講義を体験しました。箱崎雄子准教授(英語教育講座)

が文系「発音の基礎・基本—これだけで英語らしく聞こえる—」、橋本健一准教授(英語教育講座)が理系「理系×英語×教育:読んで・わかって・教える」の講義を行い、アクティブラーニングを取り入れた楽しい授業を提供しました。

続いて、教職をめざす思いや日常生活での感動をテーマとした作文コンクール「Leading to the Future 未来に向かって—教師・夢・感動—」の表彰式が行われ、加盟校14校304件の応募の中から、桜塚高等学校の藤原詩菜(ふじわら うたな)さんの作品が最優秀賞に選ばれました。

参加した生徒からは「大教大の良いところがたくさんわかり、志望する気持ちがさらに強くなった」「学生の方々が楽しそうで、充実していることが伝わってきたので良い印象が持てた」「特別講義は普通の授業と違い内容がとても興味深く面白かった。大学生になるのが楽しみ」といった感想が寄せられました。



大学の魅力をプレゼンする学生



グループに分かれて学内見学へ



箱崎雄子准教授による特別講義



作文コンクール最優秀賞の藤原詩菜さん(左)



高校教員対象に「教師の学び舎」特別講座

大阪府立高校教員らを対象に、「教師の学び舎」特別講座を12月3日(土)、天王寺キャンパスで開講し、約70人が参加しました。

「教師の学び舎」は、教職大学院レベルの授業を3回完結で提供する教師塾です。今回は、多忙な高校教員の要望に応じて1日限定とし、「カリキュラムマネジメント」と「高大接続」をテーマに開催しました。

午前中は、岐阜大学大学院教育学研究科の田村知子准教授が、カリキュラムマネジメントについて講義しました。ゴールを設定してから指導を計画する「逆向き設計」論を紹介。教育目標や組織構造、学校文化などの要素を分析、改善する手法を説明しました。そして「最初からベストでなく、ベターをめざして、まずは実行してほしい」と語りました。続いて、本学連合教職大学院の木原俊行教授と教職教育研究センターの恩知忠司教授が加わり、講義内容を具現化するワークショップを行いました。4人1組で所属校の現状や課題を共有し、改善策を検討したあと、他グループとも交流して意見を交わしました。

午後からは、立命館大学高大連携推進室の熊谷秀幸課長が、高校に求めるキャリア教育・進路指導につ

いて話しました。「企業から見て学生に不足しているのは主体性やコミュニケーション能力、粘り強さだが、学生は語学力や業界の専門知識、資格が不足していると考えている」としたうえで、「最後まであきらめない力や、多様な価値観や国籍の仲間とともに働く力を養うことが求められている」と語りました。

最後に、「教師の学び舎」の受講経験を持つ教員が、現場での実践を発表しました。夕陽丘高校の福本美紀教諭は、自身のキャリアやミドルリーダーとして求められる役割を話し、寝屋川高校の木原裕紀教諭は、カラオケチェーン店で行われているじゃんけんやサイコロを使ったイベントを例に、数学の確率を学ぶ授業実践を紹介しました。

参加した教員らは「ワークショップで使われたマネジメントのイメージ図がわかりやすかった。同僚とじっくり取り組みたい」「企業と学生のニーズの大きな食い違いには驚いた。アクティブラーニングなどで企業の求める力を養う必要性を感じた」「日常生活の中から楽しい教材を見つける視点はユニークで、数学と実社会をつなぐことが重要だと思った」などと感想を寄せました。



田村知子准教授の講演



ワークショップに取り組む教員たち

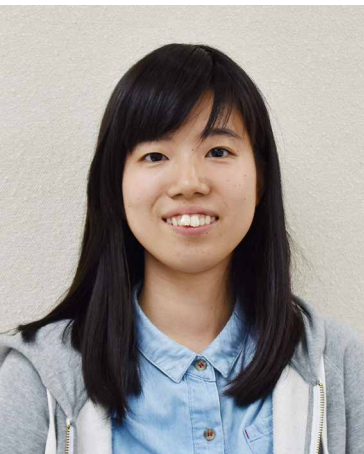
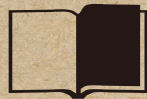


他グループと交流し内容を共有する



熊谷秀幸課長の講演

加盟校出身学生・卒業生の紹介



はまさき
濱崎 ほのか さん

学校教育教員養成課程教育科学専攻1回生
八尾高等学校2015年度卒

—高校時代一番の思い出は？
吹奏楽部に入っていたことです。高校でゼロからトロンボーンを始めました。それまでは2年生の終わりで引退していましたが、みんなで泣きながら話し合いを重ね、3年生でコンクールに出場しました。受験勉強との両立は大変でしたが、充実していました。

—大教大を選んだ理由は？

一番好きだった小学校5、6年生の担任の先生が、大教大出身だったのがきっかけです。同じ夢を持つ仲間がたくさんいて、とても刺激になっているので、大教大を選んでよかったです。

—学生生活以外で取り組んでいることは？

小学生と一緒にキャンプに行くキャンプリーダーというボランティアをやっています。楽しいことだけでなく、しんどいこともあります。とても勉強にな

ります。他大学の人と交流できることも魅力です。他には、スタディ・アフター・スクールに参加しています。放課後に小学校の空き教室などを利用して、子どもたちと一緒に勉強したり、体を動かしたり、様々な学習活動を手助けします。私が通っている小学校は、小学2年生から6年生がいて、宿題をみたり遊んだりしています。今は子どもたちの間で縄跳びがブームで、休憩時間にひたすら縄跳びをしています。

—将来の夢は？

小学校の先生になるのが夢ですが、今は少し迷いもあります。小学生と関わりを意識的に多く持ちながら、将来についていろいろ模索しているところです。

—最後に、後輩へのメッセージを。

受験勉強を乗り切るには、高校の先生と仲良くなるのが一番だと思います。私は、塾に行っていなかったのですが、少しでもわからないことがあれば、先生に質問しに行っていました。あとは、友達や先生を大切に、部活など自分の好きなことに熱中して頑張ってください。

いしい こうすけ
石井 孝典 さん

教養学科スポーツ専攻3回生
春日丘高等学校2013年度卒



—大教大を選んだ理由は？

小学校の頃からぼんやりと先生っていいなと思っていました。高校のとき、大阪で、教員になれて、ずっとやっている水泳も強いところ、と思って調べたら大教大に行き着きました。国立大で1部で戦ってってかっこいいなと思って選びました。

—大教大に入ってよかったことは？

スポーツの勉強と教育の勉強を両方同時にできて、専門性が高く面白い授業が多いのが魅力です。それに、体育会の部活動が活発で、勉強しながら部活もしっかり頑張れるところがいいです。

—現在の学生生活について教えてください。

今は水泳部の部長をしていて、部活中心の生活を送っています。指導者がいない中で、自分たちで工夫しながらメニューを作り、練習に取り組んでいます。アルバイトは塾の先生をしています。上から教えてあげているというのではなく、教育の実践をさせていただいているという気持ちで臨んでいます。将来教員になるのに役に立つと思います。

—勉強と部活の両立で苦労していることは？

実は、あまりないんです。課題のレポートを書くのも、面白くてのめり込んで、時間が経つのを忘れてしまうくらいです。部活は充実していますし、好きな分野の勉強をしているので、毎日が楽しいです。

—将来の夢は？

リオ五輪をテレビで観戦し、これが次は東京で開催されるのかと思ったとき、自分も何らかの形で携わりたくなりました。できれば、東京五輪に出場したい。そしてそのあとは、高校の教員になって部活動の指導にあたりたいです。

—後輩にメッセージを。

勉強ばかりしていても息が詰まってしまうので、勉強以外に集中できる何かを見つけてください。趣味でもアルバイトでもなんでもいいです。高校生の中に、いろいろなことを学んで人間性を磨いてほしいです。



大阪府立夕陽丘高等学校

本校は明治39(1906)年に大阪府立島之内高等女学校として創立されて以来、「豊かな情操と気品のある人材の育成」を校訓に、1世紀の年月を超えて発展し続けてきました。昭和23年には学制改革により大阪府立夕陽丘高等学校となり、大阪府立天王寺高等学校と生徒及び教職員を交流し男女共学になりました。平成6(1994)年には府立高校唯一の音楽科を設置し、国内最高レベルの音楽教育を推進しています。

現在は、次の4本柱を中心に教育活動に取り組んでいます。

夕陽丘の4本柱

1. 一人一人の進路希望を実現できる学力を身に付ける
2. 自ら考え、行動できるように自主・自律の心を養う
3. 国際交流体験を通して自己発見と他者理解を深める
4. 国内最高レベルの音楽教育を推進する

110年の伝統と誇りを胸に新たな歴史へ ……………

昨年11月には110周年記念式典を大阪国際交流センターで実施しました。110周年は「生徒が主役」をコンセプトに、マスコットキャラクターの制定、体育祭のタオル製作などを生徒たちが企画・実施しました。また、陸上ホッケーのインターハイ出場、大阪府立大学国際シンポジウムでのメタセコイアの研究発表など、幅広い分野で生徒たちが活躍しました。さらに、「I Love 夕陽. We Love 夕陽.」を合言葉に、生徒や保護者だけでなく、同窓生や地域の方も一緒になって、清掃や花を植える活動など、学校を盛り上げる様々な取り組みを行っています。



大阪府立夕陽丘高等学校 創立110周年記念式典

世界へ羽ばたく夕陽丘 日本と世界の架け橋に…………

国際交流は、創立から本校の特徴の1つで、明治42年のロシア観光団を皮切りに、多くの国々から使節団を迎えました。現在は台湾やアメリカの高校と相互交流しています。オバマ前大統領の母校であるハワイのプナホウ高校とは毎年テレビ会議で交流し、台湾鳳新高級中学、ニューヨークのクラークスタウン高校とは、修学旅行や研修旅行で学校交流を行っています。昨年6月にはオバマ前大統領の広島訪問を受け、クラークスタウン高校の生徒と平和についての討論を行いました。



留学生の受け入れも積極的に行っており、現在はアメリカ、中国、ノルウェー、ドイツから6名の生徒が学んでいます。

外部と連携し、先生も生徒も学び続けます ……………

今年度は大阪教育大学、大阪芸術大学、大阪交響楽団などとの音楽共演の機会も数多くいただきました。間近で大学生やプロの音を聴いて同じ舞台上で演奏することほど学びの大きいことはありません。

特に大阪教育大学には、連合教職大学院の木原俊行教授に校内研修で指導助言いただいたり、府立高校教職コンソーシアムの様々なプログラムに延べ50人が参加したりして、教員、生徒とも大きく成長し、今後につながる多くの示唆をいただきました。

このように高校生、大学生、教員、指導主事など、教育に関わる人が総掛かりで高校生の育成に取り組むことは画期的で、全国的にも注目されています。今後さらにコンソーシアムが一体となって、主体的・協働的に大阪教育大学との連携を充実させていくことを願っています。



マスコットキャラクター「ゆうくん」(左)と「ひーちゃん」

有名人企画復活！ 進化した「神霜祭」開催

恒例の秋季大学祭「神霜祭」が、11月2日(水)、3日(木・祝)、4日(金)の3日間にわたり柏原キャンパスで開催され、約4000人が訪れました。

今年のテーマは「神霜メガ進化！～スマイルあると思います。～」。目玉企画として、芸人によるお笑いライブショーが5年ぶりに復活しました。吉本興業の人気お笑いコンビ「祇園」「スマイル」「天津」が次々と漫才を披露し、メインステージは笑いの渦に包まれました。さらに現役大学生シンガーソングライターの林青空さんがライブコンサートを行い、パワフルな歌声で観客を魅了しました。このほか、学生たちによるダンスパフォーマンスや音楽ライブ、模擬店、教室展示など、個性あふれる催しが多数繰り広げられました。本学公式キャラクター「やまお」と「たまごどり」も登場し、会場を盛り上げました。

大学祭実行委員長の熊谷英樹さんは「ここ数年、実行委員の人数が少なく苦勞したが、今年は1回生がたくさん入ってくれた。来年以降もさらに盛り上げられるよう頑張ってもらいたい」と話しました。



大学院生が台湾の大学で芸術交流

美術および音楽を専攻する大学院生12人と教員3人が、12月6日(火)から9日(金)にかけて協定校である台湾・屏東大学を訪問しました。

大学院美術教育専攻では、授業の一環として2013年から屏東大学と交流を重ねています。今後、美術だけでなく様々な文化の交流へと広げることをめざし、今回初めて大学院芸術文化専攻音楽研究コースの学生が参加しました。

本学学生の企画による美術ワークショップでは、参加者全員で抹茶と墨を使った即興的なアートを制作し、言葉の壁を超えて友好を深めました。また、音楽研究コースの学生と教員によるコンサートも行われました。

参加した学生は「ワークショップは言葉の違いを感じないくらい盛り上がり、美術が共通した言葉の役割を果たしていたように感じた」「学生との交流や演奏を通して、思いが伝わる喜びを感じられた。この伝える力を今後の演奏活動に生かしていきたい」などと感想を寄せました。



編集後記

7月に広報室にやって来て、早半年。真夏だった季節も、気づけば冬になりました。この間、たくさん的高校生・大学生をインタビューしてきました。夢と希望にあふれた言葉を聞くたびいつも思うのは、学生の頃、無為に無気力に日々を送っていた「私のバカ！」ということです。とはいえ残念ながら過去は変えられない。だからせめて、将来を見据えてきらきら輝く皆さんのお手伝いが少しでもできたらと、慣れない取材、写真撮影、原稿書きに日々奔走しています。このメールマガジンが、誰かの今を未来へと繋ぐ架け橋になったら、この上ない喜びです。一生懸命頑張りますので、今後ともよろしくお願いたします。

(Y)